

としょしつだより

6 がつ



いよいよ^{あめ}雨の季節^{き せつ}がやってきました。ウメの実^みが熟^{じやく}す時期^{じ き}なので「梅雨^{つ ゆ}」といわれるようになりました。日本^{に ほん}では降^ふる時期^{じ き}や降^ふり方^{かた}によっていろいろな雨^{あめ}の名前^{な まえ}があります。みんなはどのくらい知^しってるかな？

- 春雨^{はる さめ}……春^{はる}にふる^{あめ}雨。とくにしとしととふる、霧^{きり}のような雨^{あめ}。
- 時雨^{し ぐれ}……秋^{あき}から冬^{ふゆ}にかけて、ふったりやんだりする雨^{あめ}。
- 涙雨^{なみだ あめ}……かなしいときの涙^{なみだ}が雨^{あめ}になってふったと思^{おも}われるような雨^{あめ}。
- きつねの嫁入^{よめ い}り……太陽^{たいよう}が出^でているのに、雨^{あめ}がふること。

「新^{しん}レインボー小学^{しょうがく}類語辞典^{るいご じてん}」より



『あめふり うります』

ひら た まさひろ さく の むら たかあき え げんあん
平田 昌広 作 野村たかあき 絵・原案

「ねこが かおを あらうと あめが ふる」

そんな言^いい伝^{つた}えがありますが、この村^{むら}にいる猫^{ねこ}のねこきちは、
かおを^{あら}洗^{せん}うの^{めんどう}だって面倒^{めんどう}だという、ぐうたら猫^{ねこ}。

ことわざや言^いい伝^{つた}えも楽^{たの}しめて、思^{おも}わず笑^{わら}ってしまう愉^ゆ快^{かい}な物^{もの}語^{がたり}。

※岩出^{いわで}図書館^{としょかん}にある本^{ほん}です。学校^{がっこう}に無^ない時^{とき}は借^かりに来^きてね！



江本^{えもと} あきこ 詩集^{ししゅう}

「三日月^{みかづき}のひと」
てらいんく

デュエット
あめあがりのあさ
デンデンムシが
マンシヨンのかべを
のぼっている
ごじまんのがつきを
だいじそうに
せおつて
ぽかり ぽかり
くものむこうで
あおいそらは まっている
いつしよに
ホルンを ならそうと

